

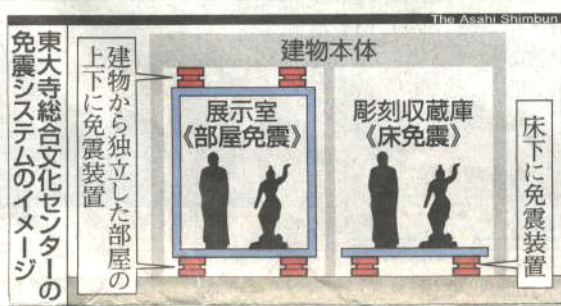
# 東大寺に免震展示室

## 国宝の仏像 移転予定

奈良・東大寺（上野道善別当）は今秋完成予定の「東大寺総合文化センター」に、免震構造の展示室を設ける方針を決めた。建物全体で免震システムを施すには基礎部の大



規模工事が必要となり、地下の貴重な遺跡を壊す恐れがあ



るため部分的に導入する。「部屋免震」は極めて珍しい手法で、同寺最古の建物の法華堂（三月堂）にある日光・月光両菩薩立像（国宝）などの移転を予定している。

センターは地下1階、地上3階の鉄筋コンクリート製で、延べ床面積約5900平方メートル。境内の収蔵庫、図書館が老朽化したことや、仏堂で安置しきれなかった仏像などの展示を目的に南大門（国宝）西隣に建てる。

部屋免震は1階の展示室（約500平方メートル）に採り入れる。展示室は内部に独立した部屋を設ける「二重箱」の構造で、12基の免震装置を天井裏と床下に配する。彫刻収蔵庫

（約2000平方メートル）は「床免震」の構造にする。展示室は来館者が訪れるため、より耐震性の高い構造にした。いずれも2011年に稼働予定。

新築の寺院自体の免震や、博物館内に免震の展示ケースを置く例はある。センター建設のアドバイザーを務める和田章・東京工業大教授（免震工学）によると、部屋免震は極めて珍しい。

境内には、法華堂の日光・月光両菩薩立像だけでなく、戒壇堂の四天王立像など国宝の塑像は多い。筒井寛昭執事長は「文化財も、人も守るため先端の技術を先取りすることにした」と話している。

（編集委員・小滝ちひろ）